

## 申命記#12:神の統治の下にある生活と祝福

2020/5/11-17 アウトラインと御言葉は『朝毎の食物』を使って下さい

**Summary:** **I.** イスラエルの子たちは、良き地における彼らの日を長くするために、神の統治の下で生きて、神がモーセを通して彼らに命じたすべての事を行なうように求められました。**II.** モーセは、イスラエルの子たちの前に命と死を置き、彼らに命を選ぶように命じました。**A.** 神の命は唯一の命です。神の命だけが、命と考えられることができます。神の内容とは、神の存在であり、神の流れ出とは、神ご自身を命として私たちに分け与えることです。**B.** 私たちは人の前にある二つの選択、命の木と善悪知識の木を見ます。二つの木は、命の原則(神に依存すること)と善悪の原則(神から独立すること)です。私たちは、クリスチャン生活と召会生活において、善か悪にしたがってではなく、命か死にしたがって、事柄を識別すべきです。**C.** 私たちは、霊の中のキリストの復活の命によって、召会に対する死の攻撃に勝利することができます。サタンの特長な目的は、死を召会の内側で拡大させることです。サタンが召会に関して最も恐れるのは、召会が彼の死の力に対抗することです。「この岩」の上に建てられる召会は、死と命を識別することができます。私たちは死の攻撃に打ち勝とうとするなら、キリストを最初の者、最後の者、生きている者(死んだが再び生きた者)、死とハデス[陰府]のかぎを持っている者として認識する必要があります。**III.** モーセは、イスラエルの子たちの前に、祝福とのろいを置きました。**A.** 神は人を祝福して、人が生み、増え、地に満ちて、地を従わせるようにしました。なぜなら、神は、生き物がご自身のかたちを帯び、ご自身の統治権を持っているのを地上で見たからです。**B.** 神はご自身の選ばれた人に対する祝福となるために、地上に王国、領域、範囲を得て、ご自身の完全で神聖な権威の下で、ご自身の行政を執行しなければなりません。私たちはみな祝福を受けることを願いますが、その祝福は、神の権威の範囲、神の行政の下にある範囲を必要とすることを認識していないかもしれません。**C.** 神は、「キリストの中で、天上にある霊のものであるあらゆる祝福をもって、私たちに祝福してくださいました」。**D.** 神の祝福は内在的に、一と関係があります。詩133:1-3「何とすばらしく、何と喜ばしいことであろう。兄弟たちが和合して住んでいる！それは、頭に注がれた尊い油が…流れ下るようだ。…露がシオンの山々に下って来るようだ。まことに、エホバはそこに祝福を命じられた。すなわち命を永遠まで」。「そこに」は、主が祝福を命じられた、命を永遠までに命じられた一を指しています。**E.** 主は命によるご自身の回復において、ご自身の牧養を通して、私たちをご自身の祝福の享受の中へともたらし、私たちに祝福の大雨の下で祝福の源とならせます。私たちがまず主の祝福を享受し、それから主は私たちに他の人に対する祝福の源とならせます。そうして彼らは供給されることができます。神は季節にしたがって、祝福の大雨を降らせます。**F.** 私たちが主から受ける最大の祝福は、主が私たちに何を与えてくださるかではありません。最大の祝福は、主が私たちにどのようなものにするか、すなわち主が私たちにどのようなものにならせることができるかということです。

**G.** クリスチャンの正常な生活は祝福の生活であり、クリスチャンの正常な働きは祝福の働きです。**H.** 私たちが認識しなければならないのは、私たちの働きにおいて、私たちのクリスチャン生活において、私たちの召会生活において、あらゆることは主の祝福にかかっているということです。

**Crucial Point(1):** 人の前には命の道と死の道が置かれている。主の御名を呼び命と死を識別し、命の道を取り、祝福された学生生活を歩む

申 30:19-20 私はあなたの前に、命と死、祝福とのろいを置いた。それゆえあなたは命を選びなさい。それはあなたもあなたの子孫も生き、エホバ・あなたの神を愛して、彼の御声に聞き従い、彼にしっかりと結びつくためである。また、彼があなたの命であり、あなたの日数の長さであり、エホバがあなたの父祖たちに…誓われた地に、あなたが住むことができるためである。

**OL1:** モーセは、イスラエルの子たちの前に命と死を置き、彼らに命を選ぶように命じました。

**OL2:** 神の命だけが、命と考えられることができます。神の内容とは、神の存在であり、神の流れ出とは、神ご自身を命として私たちに分け与えることです。

**OL3:** 私たちは人の前にある二つの選択、命の木と善悪知識の木を見ます。二つの木は、命の原則(神に依存すること)と善悪の原則(神から独立すること)です。

**OL4:** 私たちは、クリスチャン生活と召会生活において、善か悪にしたがってではなく、命か死にしたがって、事柄を識別すべきです。

**OL5:** サタンの特長な目的は、死を召会の内側で拡大させることです。サタンが召会に関して最も恐れるのは、召会が彼の死の力に対抗することです。「この岩」の上に建てられる召会は、死と命を識別することができます。

クリスチャン生活は命であり…ある事が正しいか間違っているかを尋ねる事柄ではなく、…私たちが何かを行なうときはいつでも、私たちの内側の命を調べる事柄です。神が私たちに与えられた新しい命は、この事柄について内側で私たちに何を告げているのでしょうか？…私たちの内なる命は何と言っているのでしょうか？

もし命が私たちの内側で強く、活動的であるなら、私たちはこの事を行なうことができます。もし命が私たちの内側で冷たく、後退しているなら、私たちはそうすべきではありません。生活のための私たちの原則は、外側のものではなく、内側のものです。

クリスチャンの生活の標準は、邪悪な事柄を取り扱うだけでなく、善で正しい事柄も取り扱います。多くの事柄は人の標準にしたがって正しいのですが、神聖な標準はそれらが間違っていると宣告します。なぜなら、それらは神聖な命に欠けているからです。…神の命が私たちの内側で起き上がるか、弱まるかのよう、決定は神の命にしたがってなされるべきです。…私たちがこの事柄について内側で喜ばしく感じるのでしょうか？私たちに霊的な幸いと平安があるのでしょうか？これらが私たちの霊的な道を決定する事柄です。

**適用: 新人及び青少年・大学生編**

神はあなたの前に命の木と善悪知識の木を置き、命の木を取り善悪知識の木を取らないように命じられまし

た。命の木とは神に依存する原則であり、善悪知識の木とは神から独立するサタン原則です。命の木を取るとその結果は祝福と命であり、善悪知識の木を取った結果はのろいと死です。あなたは救われる前、善か悪かを識別して歩んで来たかもしれませんが、救われた後、善か悪かではなく命か死かで識別すべきです。神の目から見て善も悪も同じ木であり、命の木と相対します。

小学校高学年になると、勉強も徐々に難しくなってきます。勉強する時、神に依存して勉強するのと、神から独立して高ぶって自分に頼り勉強するのと、二つの道があります。あなたは幼い時から主の御名を呼び神に依存して勉強することを学んでください。サタンの原則は、高ぶって神から独立し自分の名を上げることです。しかしその結果は死です。サタンの究極の運命は火の池での滅びです。サタンはこのことを知っているのです、誰かを道連れにしたいと考え、人を善あるいは悪をもって誘惑し、神から逸らそうと全力を尽くしています。

例えば「勉強するので集会に行けない」というのは善をもって神を命として享受することから逸らすことです。このような方法で勉強すると、仮に成績が上がったとしても、高ぶっており神から独立しているので、神の祝福を受けることはできず、最終的にはのろわれた学生生活を歩むようになります。このような人は、高ぶっているのです、神や人に感謝せず、正しい人間性を持って成長することができません。

また「楽しいゲームだけに集中したいので、勉強や集会の時間はもったいないので必要ない」という怠惰と欲望という悪をもって人を誘惑します。さらに善悪知識の木の原則は、複雑で混乱していることです。善があり悪があり知識があり、複雑です。ところが命の木は、ただ命で単純です。したがって人が複雑になり混乱している状況は、善悪知識の木を食べている状態です。単純に一日一日を、主をエンジョイして主に信頼して勉強し、遊ぶ正しい青少年の道を歩んでください。決して高ぶって「自分は何でもできるので主に頼る必要はない」と心の中でも言うてはなりません。

**祈り:**「おお主イエスよ、勉強する時に主の名を呼んで、主により頼み勉強します。主により頼んで勉強する時、私はキリストを知恵、理解力、暗記力、集中力とすることができます。決して自分に頼りサタンの道を歩んで高ぶってはいけません。私は心の中の高ぶりをも対処します。そうでないとサタンの狡猾(こうかつ)な罠(わな)に引っ掛かり、善悪知識の木を食べ、複雑さと混乱の中に陥り、のろいと死の中に落ち込んでしまいます。私は命の木を取って勉強し、祝福される道を取ります」。

**Crucial Point(2):** 召会が祝福を受けるために、責任者、奉仕者は率先して神の行政の下で生活しなければならぬ。そうでなければ召会は祝福を失ってしまう

**OL1:** 神はご自身の選ばれた人に対する祝福となるために、地上に王国、領域、範囲を得て、ご自身の完全で神聖な権威の下で、ご自身の行政を執行しなければなりません。

**OL2:** このような王国がなければ、神がご自身の定められた御旨を完成するための領域を得ることはありません。いったん王国が存在するようになると、その王国は、神が私たちを祝福してくださる領域、範囲となります。

**OL3:** 私たちはみな祝福を受けることを願いますが、その祝福は、神の権威の範囲、神の行政の下にある範囲を必要とすることを認識していないかもしれません。

**創 1:28** 神は彼らを祝福された。そして神は彼らに言われた、「生めよ、また増えよ。そして地に満ちよ、そして地を従わせよ。そして…治めよ」。

私たちは神の祝福を受けようとするなら、その資格を満たす必要があります。…その資格はかたちと統治権です。あなたの家庭に神のかたちと神の統治権があるなら、あなたは神の祝福がそこにあると、確信することができます。…神の祝福は常に彼の表現と彼の代行に続きます。

その祝福は生むこと、増加すること、増えること、地に満ちることです。…神は…人を彼のかたちに創造し、彼に権威を与えて地上で全能者に代わって統治権を持つようにされました。この人は神の祝福の用意ができていました。神の祝福は、この人が生むことができるようにしました。一人は十人になり、十人は百人になり、百人は千人になり、千人は十万人になり、十万人は百万人になり、百万人は十億人になって、全地は神を表現し代行する美しい顔で満たされます。

神がどれほど私たちを祝福することができるかは、私たちがどれほど彼を表現し、彼を代行するかにかかっています。彼を十分に表現し、代行するなら、私たちは増えることと生むことにおいて、必ず十分な祝福を受けるでしょう。

私たちは、主が私たちに良き物を与えることを差し控えることはないということを見なければなりません。もし働きがうまくいっていないなら、もし兄弟姉妹がみじめな状態にあるなら、あるいはもし救われる人の数が増し加わっていないなら、私たちは環境や特定の人々を言い訳として用いるべきではありません。私たちは兄弟たちを責めることはできません。私が恐れているのは、本当の理由が祝福の妨げをいくらか私たちの内側に持っているままであるのではないかということです。もし主が私たちの中で突破することができるなら、主の祝福は私たちの度量よりも大きくなるでしょう。かつて神はイスラエル人に次のように言われました、「もし望むなら、これによって、私があなたがたに天の窓を開き、祝福をあなたがたに注ぎ出して、余地がなくなるまでになるかどうか、さあ私を試してみよ」(マラキ3:10)。神は依然として今日このように言っています。クリスチャンの正常な生活は祝福の生活であり、クリスチャンの正常な働きは祝福の働きです。もし私たちが祝福を受けないなら、私たちは「主よ、おそらく私が問題なのでしょう」と言うべきです。

#### **適用: 奉仕者編**

神はあなたが人に対する祝福となることを願っています。そのためにあなたは神の権威の範囲、神の行政の下にある範囲の中で生活しなければなりません。これが神聖な原則ですので、あなたは愚かになってただ祝福だけを求めてはいけません。あなたが神の統治に服従しなければ、祝福されることはありません。**啓示録22:1** また御使いは、水晶のように

輝く命の水の川を私に見せた。それは神と小羊の御座から、大通りの中央を流れていた。

命の水の川は御座から流れ出ており、どこからでも流れているではありません。御座に服さない人は命の水の川の流れにあずかることはできません。

召会が祝福されないのは正常な状態ではありません。祝福する神が召会を祝福できないのは奉仕をしている兄弟姉妹に原因があります。

**召会の責任者の証し:**1993年4月に神戸の私の家で集会を始めてから2014年まで、毎年10%以上の主日集会の人数の成長がありました。ところが主日集会人数が120名を越した2015年から2016年にかけて、成長率が10%を割りました。私はこの事実非常に悩まされました。2016年の10月に米国に出張した次の日にネパールの特別集会に参加して、メッセージを担当するために飛行機で移動している時、内側で「仕事が忙しすぎるので召会生活の必要に感じきれていないのではないか？」との主の語りかけを聞きました。私は直ちに「10名以上の兄弟姉妹の雇用が私の肩にあり、召会の財政も大部分は私と私の部下の肩にあるので、会社を辞めるのは難しいです」と主に応答しました。しかし内側に平安がなかったので主に開いて交わりました。私は会社の祝福より主の声を聞かなければならないと感じ、結局会社を辞めることを決めました。帰国後、妻やおもだった兄弟姉妹と会社を辞める事を交わりました。彼らは賛成してくれたので、それから会社を辞める交渉を米国本社と開始しました。3ヶ月の特別休暇をもらって2017年12月に退職しました。実際上は9月初旬で会社には行かなくなりました。2017年の後半から召会は人数が増えるようになり、その年以降10%成長を回復することができました。神は召会を祝福したいのですが、私が忙しすぎる事が召会の成長の妨げになっていました。仕事は主の祝福によってすばらしく繁栄していましたが、主の指示に従って会社を辞めて召会の奉仕により多くの時間を費やすことができるようになりました。主を賛美します。

**祈り:**「おお主イエスよ、召会が祝福されるために、責任者、奉仕者は率先して神に服し、神の統治の下で生活する必要があります。私たちの生活が私たちの奉仕の基礎であるからです。神の統治の下で生活しなければ、神は召会を祝福することができません。主よ、神の統治の下で生活することを訓練します。召会が地上でますます増し加わり繁栄しますように。このことが私の人生の夢であり目標です」。

**Crucial Point(3):**最大の祝福は、外側の祝福ではなく、私たちの魂が造り変えられ、召会の柱となることである

**OL1:**神は、「キリストの中で、天上にある霊のものであるあらゆる祝福をもって、私たちを祝福してくださいました」。

**OL2:**主は命によるご自身の回復において、ご自身の牧養を通して、私たちをご自身の祝福の享受の中へととらし、私たちを祝福の大雨の下で祝福の源とならせます。私たち自身がまず主の祝福を享受し、それから主は私たちを他の人に対する祝福の源とならせます。そうして彼らは供給されることができます。神は季節にしたがって、祝福の大雨を降らせます。

**OL3:**私たちが主から受ける最大の祝福は、主が私たちに何を与えてくださるかではありません。最大の祝福は、主が私たちをどのようなものにするか、すなわち主が私たちをどのようなものにならせることができるかということです。

**OL4:**私たちが認識しなければならないのは、私たちの働きにおいて、私たちのクリスチャン生活において、私たちの召会生活において、あらゆることは主の祝福にかかっているということです。

**エペソ1:3** ほむべきかな。私たちの主イエス・キリストの神また父。この方はキリストの中で、天上にある霊のものであるあらゆる祝福をもって、私たちを祝福してくださいました。「あらゆる」という言葉は、神の祝福がすべてを含むことを示しています。それはすべてを含んでおり、何の例外もありません。

これらの祝福はすべて霊のものであります。これは神の祝福が聖霊と関係があることを示しています。霊のものであり、神が私たちを祝福されたあらゆる祝福は、聖霊と関係があります。神の霊は、神の祝福の経路であるだけでなく、神の祝福の実際でもあります。

この「天上」は、天的な場所を示しているだけでなく、神が私たちを祝福された霊のものである祝福の、天的な性質、状態、特徴、雰囲気をも示しています。これらの祝福は天からであり、天的な性質、天的な状態、天的な特徴、天的な雰囲気があります。キリストにある信者たちは地上で、これらの天的な祝福を享受しています。それらは霊のものであり、また天的なものです。

最後に、これらすべての霊のものである祝福は、キリストの中にあります。キリストは、神が私たちを祝福された効力、手段、範囲です。キリストの外で、キリストなしに、神は私たちと何の関係もありません。しかしキリストの中で、神は、天上にあるあらゆる霊の祝福をもって私たちを祝福してくださいました。もし私たちが自分自身の中にいるなら、神の祝福についてはおしまいです。ハレルヤ、私たちはキリストの中にいます。キリストは、私たちが祝福された範囲、経路、手段、効力です！

**エゼキエル34:26** 私は彼ら…を祝福とし、その季節にしたがって大雨を降らせる。祝福の大雨があるようになる。主は、彼の民が彼の祝福を受けるだけでなく、また彼が彼らを祝福とすると約束されました。

**啓3:12** 勝利を得る者を、私の神の宮の柱にしよう。彼はもはや決して外に出ることはない。私はまた彼の上に、私の神の御名と、私の神の都、すなわち天から出て、私の神から下って来る新しいエルサレムの名と、私の新しい名とを書き記そう。主は私たちに、聖や天の祝福を与えるとは約束しておられません。違います。ここで彼は私たちを何かにする、すなわち神の宮の柱にすると約束しておられます。

神の宮の柱になることは二つの事、すなわち造り変えと建造と関係があります。この国に来て以来、私の負担はこれら二つの事にありました。主が私たちに与えられる最大の祝福は、私たちを造り変えること、そして彼の宮の中へと建造することです。…神の宮の柱にされるとは、[何を意味するのでしょうか？]…

私たちが主の御言において主から受けた少しの力を用い、主に対して真剣であるなら、造り変えられる用意ができており、主が私たちが柱とされるのに適切な地位にあります。この事は、まず私たちが尊い材料に造り変えられること、次に柱へと建造されることを要求します。土くれである私たちがどのようにして、神の宮の柱になることができるのでしょうか？土くれから宝石に造り変えられ、次に神の建造の中へと建造されること以外に、方法はありません。…最大の祝福は、主が私たちに何を与えてくださるかではなく、主が私たちがどのようなものにしてくださるかです。

### 適用：在職青年・大学院生編

20世紀末になって、GE、P&Gなど優れたグローバル・カンパニーは、従業員のトレーニングに多大なコストを費やすようになりました。なぜなら業務を遂行するのは人であり、人が成就されれば結果として業務を改善することができるという考えに至ったからです。実は神はこのような考えを初めから持っておられます。神のエコノミーはあなたに何かを与えて祝福するのではなく、あなた自身を造り変えて、新エルサレムの構成要素とするのです。

愚かな人は外側の祝福だけを求めますが、神はあなた自身が神で構成され、造り変えられることを願います。これが真の祝福です。

例えば30～35歳の在職青年は、目先の収入を増やすことを求めるのではなく、自分自身が装備され訓練されることに重きを置いてください。これくらいの歳までに将来の方向性を決定し、その領域で前進し、また管理職になることを追い求めてください。そうすればあなたは主と会社によって訓練された役に立つ人になることができ、会社においてもすばらしい将来が開かれるでしょう。

祈り：「おお主イエスよ、私は外側の祝福ではなく、真の霊的で天的な祝福であるあなたご自身を求めます。あなたご自身が私の再生された霊から思いに広がり思いを更新し、魂を造り変え、死ぬべき体にも命を分与してください。造り変えがなければ神にとっても人にとっても有用な人になることはできません。造り変えられ柱となる勝利者の一人にしてください。主の御名によって求めます。アーメン！」

わがかみわがあい 新曲(大本詩歌441より改訂)

1. わがかみ、わがあい、わが分けまえ；  
なれのほか天地に もとむものなし。  
てんも地もすべて、むなしさのみ！  
なれのようしたうもの てん地になし。
2. なれはわがたから、いのち、住まい；  
他のもの受けても、わがかみでない、  
かがやくざいもう、なんとむなし！  
なれにくらべれば、おもちゃのよう。
3. たとえ全地を得て、ほしを得ても、  
なれともになくば、あわれのきわみ！  
ばくだいなとみを、ひとはもとむ、  
されど、なが同ざい、われのまんぞく、

1. 我神、我愛、我的永分，你永是我一切；  
你外，在天我有何人，在地有你无缺！  
天上一切尽都空虚，地上更是如此！  
並無一物值得欢娱，能与我神相似。
2. 你是我的财富、生命，我的安穩住处；  
其他事物，我也感领，但非我神、我主。  
閃耀财富，与你相比，不过虚空玩具！  
何況其他人之所倚，岂不更將人愚？
3. 即使全地归我为业，群星也是我的，  
若无你作我的一切，我仍可憐至極！  
让人伸臂如同大海，笼罗一切财富；  
但我只要你的同在，此外无所愛慕。

New tune (Original hymns: E600)

1. My God, my Portion, and my Love,  
My everlasting All,  
I've none but Thee in heav'n above,  
Or on this earthly ball.  
What empty things are all the skies,  
And this inferior clod!  
There's nothing here deserves my joys,  
There's nothing like my God.
2. To Thee I owe my wealth, and friends,  
And health, and safe abode;  
Thanks to Thy name for meaner things,  
But they are not my God.  
How vain a toy is glittering wealth,  
If once compared to Thee!  
Or what's my safety, or my health,  
Or all my friends to me.
3. Were I possessor of the earth,  
And called the stars my own,  
Without Thy graces and Thyself,  
I were a wretch undone.  
Let others stretch their arms like seas,  
And grasp in all the shore;  
Grant me the visits of Thy grace,  
And I desire no more.